

論点（案）

① 「安全神話」からの脱却

原子力産業界は、規制水準さえ満たせば原発のリスクがないとする「安全神話」に陥ることなく、「残余のリスク」「残る課題」とされた問題へ注力すべきではないか。

② 原子力特有のリスクと向き合うマネジメント強化

原子力事業者は、原子力特有のリスクと向き合い、危機対応を含むリスク・マネジメントの強化を図るべきではないか。

③ 国内外の新たな知見の積極的導入

原子力産業界は、海外における対テロ対策や津波リスクに関する研究等、「国内外の最新の知見を国内の備えに活かすための想像力や体制」を強化すべきではないか。

④ 規制以上の安全レベルを目指す意識の徹底

原子力事業者は、「原子力施設の安全確保の一義的責任を負い、安全に関する説明責任を負っており、常に規制以上の安全レベルの達成を目指す必要がある」との意識を高めるべきではないか。

⑤ 継続的安全性向上に資する目安の設定

原子力事業者は、継続的な安全性向上を達成するため、「何らかの安全性向上の目安」を設定すべきではないか。

⑥ 各プラントに対する総合的かつ継続的なリスク評価

原子力事業者は、各原子力施設が置かれた状況を踏まえた客観的な定量的リスク評価の手法として、「確率論的リスク評価への取組」を強化すべきではないか。

⑦ 適切なリスク・コミュニケーションの実施

原子力事業者は、リスクの存在とそれを抑制する安全対策のあり方について、「広く社会と共有し信頼関係を醸成する」ことに努めるべきではないか。

⑧ 事業者としての原子力安全への向き合い方

原子力事業者は、各原子力施設の安全確保については、連合体に依存した「落としどころを探り合う対応」に陥ることなく、各事業者が独立した責任を果たしていくべきではないか。

⑨ 自主的かつ継続的な安全性向上に必要な仕組み

米国産業界のINPO（原子力発電運転者協会）による事業者相互監視や、原子炉メーカー等を含め、産業界の知見を糾合したNEI（原子力エネルギー協会）による科学的情報発信等の機能が我が国にも必要ではないか。

⑩ 有効な安全研究の実施

原子力産業界は、自らの原子力施設の実質的な安全性向上に直結する有効な安全研究を強化すべきではないか。